Levofloxacin が奏効した腸チフスの一症例

国立呉病院内科¹⁾, 国立呉病院臨床検査科細菌室²⁾

栗村 統¹⁾ 大石あをい¹⁾ 田村 律¹⁾ 土井 秀之²⁾

(平成4年2月18日受付)

(平成4年4月14日受理)

Key words: Levofloxacin, Typhoid fever

我々は1981年来成人の腸チフス患者、保菌者に norfloxacin¹⁾, ofloxacin(OFLX)²⁾³⁾を投与し、その成績について報告を行ってきた。今回新たに開発された OFLX の活性体とされる1体のみから構成される levofloxacin(LVFX)を使用する機会を得、腸チフスの一症例に投与した。

症例：65歳、女性。

主訴：発熱、下痢、血尿。

既往歴：甲状腺腫手術 29歳, HBV carrier。

家族歴：特記すべき事項なし。

現病歴：1990年6月中旬に感冒様の症状があったが、家庭薬の服用により一時軽快した。6月下旬に下痢がみられたが、これも軽快した。7月7日より午後から夜間にかけて38℃前後の発熱をみるようになった。近医を受診、血尿を指摘され腎盂腎炎と診断されたが、症状が好転しないため7月10日同院に入院した。同日血液培養が施行され、cefexime が投与されたが、解熱しないため7月13日に国立呉病院に転院となった。

入院時現症：身長149cm, 体重51.0kg, 体温38.7℃, 意識明瞭, 脈拍120/分, 不整なし, 血圧138/88mmHg, 前胸部から腹部にかけて数個のバラ疹があり、右季肋部に軽度の圧痛がある以外特に異常を認めない。

入院時検査成績：末梢血中白血球数6,000/mm, 肝腎機能正常, CRP 値17.9mg/dl, 赤沈値64mm/時, Widal 反応はチフス菌に対し×80, 血液

培養5回, 尿, 糞便培養それぞれ1回施行したが、いずれの検体からもチフス菌は検出されなかった。しかし入院3日前に近医で施行された血液培養よりチフス菌が検出された。第2病院日より LVFX 600mg/日(毎食後, 1日3回分服)の投与を開始した。体温は翌日より37℃台となり、6日目より全く平熱となった。入院時に見られた下痢、血尿も軽快した。10日目にはCRP 値も正常化した。投与中に軽度の上昇をみた GOT, GPT 値は本剤投与中に正常化した。LVFX の投与は14日間で終了した。糞便からの排菌のないことを確認したのち、第33病院日に退院した。6ヵ月後まで再排菌、再発は見られない。LVFX 投与によると思われる重大な副作用、検査値異常は認められなかった。

考 察

OFLX が腸チフスに有効であることはすでにわれわれも報告した。従って本剤が腸チフスに効果を示すことは、投与前から十分に想像された。LVFX は理論的には OFLX の1/2量で OFLX と同程度の効果が期待出来るものと考え、OFLX 1,200mg/日に相当する LVFX 600mg/日を投与した。さらに血清中の OFLX 活性を確認するため投与後第7および第14日に早朝より就寝前まで、血清中の抗菌活性を disc 法により OFLX を標準として測定し、すでに報告した OFLX 投与例と比較した。本例の血清中 OFLX 活性の推移には両測定日に差がなく、それぞれ6時には3.25μg/ml, 2.97μg/ml, 21時には7.21μg/ml, 8.1μg/ml で、

別刷請求先：(〒737) 呉市青山町3-1

国立呉病院内科

栗村 統

日中は $5.6\mu\text{g/ml}$ から $8.1\mu\text{g/ml}$ の濃度が保持された。既に報告した OFLX $1,200\text{mg/日}$ 投与例よりやや低く、 900mg/日 投与例より高く、ほぼ期待通りの血中抗菌活性が得られたものと考えられる。同容量の LVFX と OFLX の副作用発現率が同等とすると、OFLX 量に換算して倍量の投与が可能であり、腸チフスに限らず OFLX 投与の対象でなかったより重篤な疾患も投与対象となろう。

文 献

- 1) 栗村 統, 他: 腸チフス及びチフス菌保菌者に対する AM-715 の効果—続報—, *Chemotherapy*, 30: 1286—1296, 1982.
- 2) 栗村 統, 他: Ofloxacin が奏効した腸チフスの 1 症例, *感染症誌*, 58: 932—935, 1984.
- 3) 栗村 統, 他: 腸チフス患者ならびに保菌者に対する Ofloxacin の臨床的細菌学的効果に関する検討, *感染症誌*, 63: 623—632, 1989.

Efficacy of Levofloxacin on Typhoid Fever

Osamu KURIMURA, Aoi OOISHI & Ritsu TAMURA

Department of Internal Medicine, Kure National Hospital

Hideyuki DOI

Department of Clinical Laboratory, Kure National Hospital